



特定非営利活動法人

チャレンジ企業支援隊

Global Management Supporting Partners (GMS)

会報V o l . 3 H18年5月9日

発行：理事長 成田欽史郎

T E L & F A X 0742-44-9071

E-Mail: c-shien@kcn.ne.jp

編集 広報担当（理事）：馬場英彦

T E L & F A X 0743-75-1685

E-Mail: bamba@m4.kcn.ne.jp

新春GMSフォーラムを開催

去る2月17日（金）、大阪マーチャンドイズマートにおいて、日本経済に波及効果の大きい自動車産業とエレクトロニクス産業の現状と将来をテーマに「新春GMSフォーラム」が開催された。110名にのぼる参加者があり、両業界の専門家であり、また研究者でもある二人の講師により、内容の濃い基調講演があり、其の後当法人の柏木理事によるリードで活発なパネル討議と質疑応答が行われた。引き続いて開催された交流会でも活発な意見交換が行われ、盛況の内に記念行事を終了した。



今回の新春GMSフォーラムは、特定非営利活動法人チャレンジ企業支援隊の設立3周年記念行事の一環として、

近畿経済産業局の後援と協同組合関西ブレイコンソシアム（津野理事長）及びTK創研プラティナネットワーク（木下理事長）の特別協賛により、また関西ニュービジネス協議会（伊藤事務局長）、近畿産業技術クラスター協同組合（寺山理事長）、エレガンスの会（下間代表）、G-MAC（橋内代表）の特別の協力により開催されたものである。

I部 基調講演



基調講演では、先ず松下電器産業株式会社グローバル戦略研究所の安積敏政首席研究員より「日

本のエレクトロニクス産業の国際競争力の行方」と題して、又京都大学大学院経済学研究科の塩地教授より

「日本の自動車産業の国際競争力の行方」と題して、概ね以下の様な論旨の講演があった。

21世紀に入り、韓国・中国の台頭は著しいものがある。日本の電機・電子産業は、1970年代から90年代にかけて、世界市場を席卷したが、同時に大幅な円高が進む過程で、生産拠点のグローバル展開が急速に進展し、国内の関連中小企業は受注の急減で事業縮小を余儀なくされるなど大きな影響を受けた。

現在、日本の自動車産業とその関連企業の業績は絶好調であるが、韓国・中国企業が躍進する中で、今後

電機・電子産業の来たる道を歩むのかどうか活発な議論が行われた。二人の講演者はいずれも、この分野では第一人者といわれる論客で、活発な討議と参加者からの質問で盛り上がった。短時間での大きい演題のため踏み込んだ議論ができなかったきらいはあるが、最近の両業界の議論に一石を投じることができたのではないかと思う。

II部 パネルディスカッション

パネル討議では、柏木理事のリードで電機と自動車産業の違いについて議論が展開され、自動車産業の将来の挑戦について、両講師から独自の切り口で議論が展



開された。

またグローバル化の時代に、生き残るには、海外への展開をする、しないに係らず、どこにも負けないきらり

と光る技術力、独自の経営力、それに人材の確保が必須との点では、両講師・パネリスト共に合意した。

III部 懇親交流会

フォーラムに続いて、懇親交流会がOMMビル20

階の「東天紅」で行われ、近畿経済産業局の上村良次産業部長の祝辞と乾杯の音頭の後、奈良県中小企業支援センター専務理事池田好紀氏のご挨拶があり、引き続き講師や参加者間の意見交換が活発に行われ、有意義な交流会となった。このようなフォーラムは当法人として初めての試みであったが、中尾理事の手際よい総合司会により、スムーズに運営され成功裏にフォーラムを終えることが出来た。

□ **参加者のコメント：** 日本経済に大きな影響のある両産業の現状と将来の展望について詳しいデータをもとに解説され大変説得力があった。時期を得たテーマであり、また講師の先生の幅広い経験と研究の成果をもとに展開された論旨は大変説得力があった。

第3回モノづくり勉強交流塾開催

中小企業の経営者・幹部社員の方々に参加頂き、互いに課題や悩みあるいは取組み事例を本音で紹介し合い交流することにより、経営上のヒントや元気を得て頂くことを狙いとする「モノづくり勉強交流塾」の第3回目を、トヨタ生産方式を徹底導入されているニッタ㈱奈良工場様にて実施した。

□ 日 時： 平成18年2月27日（月）

I 部 工場見学交流会（3H）・II部 懇親交流会（2H）

□ 会 場：ニッタ㈱奈良工場

（奈良県大和郡山市池沢町172）

□ 参加者：企 業：4社6名

チャレンジ企業支援隊10名

□ ニッタ㈱様の概要・特徴

資本金： 74億円、 売 上： 513億円、

従業員： 710名

生産販売商品（構成比）： 搬送&伝道用等ベルト製品（39%）、免震用等ゴム製品（28%）、フィルタ用等空調製品（19%）、メカトロ・センサー製品（8%）、伝動搬送製品他（6%）

特 徴：

～ベルト製品で国内シェアNO.1（他社の追随を許さない圧倒的強さ：トヨタ、日産、ホンダ等殆どの自動車メーカーにも納入）

～トヨタ生産方式の導入に20年前より取組まれ、ニッタシステム（NS）として定着し運用されている。

■ 工場見学交流会の内容

冒頭、ニッタ㈱執行役員 奈良工場長の山本寛二氏よりご挨拶を頂き、DVD映像にて会社紹介を受けた

後、当交流塾の会員でもあるニッタ㈱の山崎氏より、



TNS（トータル・ニッタ・システム）改善活動について紹介頂いた。続いて大津留氏より、ニッタ㈱の省エネ活動「コージ

ェネ」について説明を受けた後、工場見学を行った。ニッタ㈱では、5S活動は元より、トヨタ生産方式（JIT：後工程引取り、かんばん方式、多能工化／自動化：目で見える管理、アンドン 等）が徹底して導入されている姿が工場見学により目の当たりにすることができ、かつ会社全体として改善活動に積極的に取り組まれていること（TQM活動、QCサークル活動、全社改善事例発表会等）がよく理解でき大変勉強になった。参加者からも「現場の5S取組みが参考になった」、「見える化が徹底されている」、「在庫が見えるのがいい」、「表示のやり方、かんばん方式が参考になった」、「ものづくりの基本について大変参考になった」等々の感想を頂き、今回のニッタ㈱にての「モノづくり勉強交流塾」は大変有意義に開催することができた。やはり実際の生産現場での工夫の姿を見ると理解しやすく勉強になることが多いので今後の「モノづくり勉強交流塾」でも随時現地現場での開催を取り入れていく考えである。（中村 顕）

奈良県宇陀地区広域異業種連携・交流会の運営を支援

平成17年の10月、当法人は宇陀地区商工会広域協議会の要請を受けて異業種交流グループのコーディネータ業務に協力することとなった。

10月18日に参加企業15社、芳村壽郎会長、奈良県商工会事務局中垣恵次次長、宇陀地区商工会広域協議会の大西事務局長、井上指導員、その他各地区の指導員参加のもと発会式がとりおこなわれた。引き続き11月7日に第一回定例会が行われ、愛称、理念、運営方針について討議し、UKIREN-21と言う愛称を決定、自主的な活動を通して、会員の交流と親交を深め、新しい価値創造のインキュベーターとなることを目指して運営することとなった。

第2回定例会は平成18年1月25日インテックス大阪で行われた中小企業総合展を視察し、出展企業の中

の数社について、成田コーディネーターから企業の特徴と商品について紹介、意見交換を行った。



第3回定例会は、平成18年3月20日に行われ、午後一番から株式会社森野吉野葛本舗と宇陀化成工業を訪問し、工場見学と意見交換を行った。夜は午後7時より定例会を開催、「中小企業総合展」の研修結果について意見交換した。又宇陀化成工業の栗林社長より会社の経営方針や現状・課題などについて報告があった。

成田コーディネーターから、中小機構の地域活性化ファンドに関するニーズ調査の説明を行い、協力を要請した。その後当法人柏木理事より「新会社法」の概要についてのセミナーを行い、会員の質問を中心に解説



を行った。

これとは別に、宇陀地区商工会広域協議会の要請を受けて、商工会会員向けに当法人中村 顕理事が65頁に及ぶ「モノづくりハンドブック」を草稿し3月末に納入を完了した。UKIREN-21は立ち上がったばかりで、会員相互の自己紹介や企業訪問を通じて、先ず親交を深め、次の段階では会員相互の得意技を生かし、新たな価値創造に向けての活動をスタートする計画である。(成田)

マーケティング部会からのご報告—その1

<なかの水どう>のホームページ制作

“最良の作品は 良きクライアントとの出会いから生まれる”という有名なデザイナーの一言がある。仲野水道設備(株)の中野社長と始めてお会いしたときその爽快なお人柄に接し 誠に厚顔不遜ながら上記の言葉を思い出した。同社は 創業45年「生駒で最初の水道工事店」として 実績と信頼を誇る老舗企業であるが、急激に拡大発展し、進化を続ける地域都市商圏の完全掌握が思うに任せず、年々増加している新規顧客はその安定確保が難しくなり、他社による侵食の心配も出始めている。しかしその一方でチャレンジ精神旺盛な中野社長は防災・危機管理、消防関連の独自開発商品に取り組み、広域の市場を視野に入れた着実な

事業化も推進している。ホームページの企画制作に当たって、この企業の特長を新しいブランドイメージとしてかたち創るため、先ずPRの基本要素と展開の考え方を提案した。シンボルロゴタイプやスローガン、企業コンセプト等をしっかり定めてからHPの全体構成と制作計画を組み、作業を進め、3ヵ月余りで第一ステージのHPを完成掲載した。HPは第一段階の掲載から第2段階への充実した継続制作が成否のキーポイントとなる。さらにHP情報と呼応連動させる周到的な営業活動への目配りも必須である。多くの企業のPRHPでよく陥りやすいのは、情報量の豊富さにこだわり頁過剰となり、ポイントがぼやけてしまうことで、この弊害を避けるため常に簡潔明快な表現で訴求点を伝える「ことばとかたち(デザイン構成)の工夫」を大切に心がけねばならない。 <なかの水どう>のHPは地域密着営業と広域全国市場販売と言う二方向の事業展開を見据え、これから第二ステージへの展開を図ろうとしている。そして私たち創り手にとっては「最良の作品は良きクライアントとの出会いから・・・」



はもとより良き制作パートナーとのチームワークが不可欠である。今後とも力を合わせクラ

イアントと市場にご満足いただけるようさらにご提案を続けていきたい。

<なかの水どう>ホームページをご覧ください!

<http://www.nakano-suidou.com/>

ご覧いただいたみなさまからのご感想ご意見を歓迎します。(HP企画デザイン:辻谷禎弘 HP制作:風間秀夫)

マーケティング部会からのご報告—その2

新古車販売デラーの研修支援

(株)フレンド西田社長は、新古車(未使用車)市場という中古車とは異なった市場に着眼し、女性をターゲットとした地域密着の軽自動車販売を展開している。このビジネスモデルを中核として「オートフィモール(コンセプトブランド)構想」の実現に取り組んでいることは当法人会報、No.2で紹介したとおりである。平成18年度には姉妹店として、4号店・5号店を

計画しており、社員も40名に増員した。今後の経営目標を実現するためには、その中核となる幹部社員の養成が最重要な課題となる。そこで、昨年末より幹部社員とさらに一般社員も加えて、社員研修の支援することとなった。今回の講師陣〔竹内・黒河・馬場〕は、経理システム支援、経営マニュアル取材・編纂、さらに情報誌の企画編集を通じて、㈱フレンドの経営体質を充分把握しており、その意味で最適のスタッフによる研修の取り組みとなった。

第一次マネジャー研修の実施



研修の会場拠点は「松下資料館」である。当館は、平成18年より竹内理事が勤務する故松下むめのさん(松下幸之助創業者夫人)

が、平成6年に松下幸之助の偉業を永く後世に伝えたいとの思いで、個人の財産を投じて創られた財団法人である。松下幸之助の「創業の精神」を基本ベースとして、永年松下の経営理念を実践してきたGMS講師メンバーが、西田社長の思いを十分理解した上で、研修プログラムを組み立てることにより、この21世紀型のベンチャービジネスを成功に導くことは、当GMSにとっても、今後様々なベンチャー企業を支援してゆく上で貴重な試金石となる。

全員参加型で新しい手法による研修内容

研修はとにかく、会社側の窮屈な理論の押しつけというイメージを持たれがちだが、この研修は、参加者自身の「気づき」と相互の「コミュニケーション」により受講後の活動成果を期待するプログラムとして開発した。研修の概要は、1. 当社西田社長の中期事業構想(経営基本理念) 2. 女性客をターゲットとした顧客満足経営 3. 参加者が自主責任経営者として統括する部門の事業計画作成の実践までを精力的に実施。毎回の研修時間は午前10時～12時30分とし、基本講義のあとは、マインドマップ手法を導入したグループミーティングを実施。

その後、松下幸之助のベンチャー精神をビデオ映像で勉強し、意見交換を行う。研修を終了したマネージャーの感想は「自社が目指す経営理念が自分なりに良く理解でき、仲間から多くの気づきを得るとともに、連帯感を持つことができた」と高い評価を頂いた。引き続き現在は、㈱フレンドの要望にお答えして一般社員研修を実施中である。(竹内・馬場)

マーケティング部会からのご報告ーその3 お土産SHOP活性化の取組み



奈良県の公共施設の中に開設されているお土産ショップの参加企業団体から、お店の活性化についての相談を受けた。大阪市立デザイン教育研究所(宮本助

教授)との産学連携で、店舗改装からイベントの企画・運営など抜本的改革の提案をすることとなった。当店は、近鉄奈良駅のすぐ近くのビルの1階にあり、330㎡の売り場面積で、出展参加企業は、約150社で構成されている。

チャレンジ企業支援隊の会員、大阪市立デザイン研究所の学生と講師陣、約20名のメンバーが現地に集合し、当ショップの現状把握、問題点の抽出、今後の対策を検討した。この検討を基に、「お客様へのお持てなしの心」を主題に、集客・販売・店内の展示などに加え、接客のあり方にいたるまで、5つの大項目と約200項目の課題や改善点を整理し、提案書として纏め上げた。昨年7月より開始された、第1回の検討会では、デザイン専攻の学生の参加により、店内のレイアウトの見直し、経費を最低限に抑えた展示改装計画、情報発信基地となるホームページの開設などのプレゼン資料を完成させた。昨年末には、10名の学生により、当店の参加企業へプレゼンテーションを実施し全面的な賛同を得た。平成18年度は、具体的に目に見える形として、店内改装や、イベントの開催などに取り組む計画である。(宮本・馬場)

「お知らせ」

第4回定期総会を下記の通り開催いたしますので、会員の方々は必ずご出席ください。

日時：平成18年5月18日(木) 午後6時から

場所：松心会館 門真市中町1-19 京阪「門真市」下車5分 TEL 06-6907-4812

内容：第4回定期総会 つづいて会員交流会

問合せ：事務局 小島直之 kojiman@zeus.eonet.ne.jp TEL 072-892-8144